

みんなと改善

**QC**  
サークル

**QC** 60 Years Anniversary

# 60周年記念号

## —原点から新たな幕開け—

# QC サークルの基本

## QC サークル活動とは

QC サークルとは、

第一線の職場で働く人々が  
継続的に製品・サービス・仕事などの質の管理・改善を行う  
小グループである。

この小グループは、

運営を自主的に行い  
QC の考え方・手法などを活用し  
創造性を発揮し  
自己啓発・相互啓発をはかり  
活動を進める。

この活動は、

QC サークルメンバーの能力向上・自己実現  
明るく活気に満ちた生きがいのある職場づくり  
お客様満足の向上および社会への貢献  
をめざす。

経営者・管理者は、

この活動を企業の体質改善・発展に寄与させるために  
人材育成・職場活性化の重要な活動として位置づけ  
自ら TQM などの全社的活動を実践するとともに  
人間性を尊重し全員参加をめざした指導・支援  
を行う。

## QC サークル活動の基本理念

人間の能力を発揮し、無限の可能性を引き出す。  
人間性を尊重して、生きがいのある明るい職場をつくる。  
企業の体質改善・発展に寄与する。

# 『QCサークル』誌 発行 60 周年によせて

一般財団法人日本科学技術連盟 理事長

QCサークル本部長 **佐々木 真一**



『QCサークル』誌が発行60周年を迎えました。多くのサークルに読み続けられ、小集団改善活動のレベル向上に多大な貢献をしてこられたことは衆目の一致する所であります。

記事の企画や取材、編集にあたられた多くの先輩委員の方々のご努力に感謝申し上げます。

私事になりますが、1970年にトヨタ自動車工業(株)（現トヨタ自動車(株)）に入社して職場配属での最初の仕事がQCサークルのアドバイザーでした。大学ではエンジンの排気ガスの浄化の研究をしていた新入社員が、導入教育のQC基礎教育を受けただけでQCサークルのアドバイザーをとわれ、付け焼き刃でQCサークルの参考書を漁って勉強をした思い出があります。

当時のトヨタ自動車工業(株)は日本品質管理賞（現在のデミング賞大賞）を受賞した直後で生産現場の作業者の詰所に行くと、工程管理の数々のグラフとともに必ず『QCサークル』誌が置いてありました。それを片っ端から読んでサークルの進め方やQC七つ道具の活用事例などを学び、知ったかぶりでアドバイザーの役目をこなしていたことは今思うと冷や汗ものです。しかしアドバイザーを務めたサークルの一つが職場代表に選ばれる幸運(?)にも恵まれ、以来今日まで50年にわたり、いろいろな立場でQCサークルの発展のお手伝いをしてきました。

経営環境の変化に対応しつつ発展続けた日本産業を支えてきたQCサークルもまた時代に合わせた活動の工夫を重ね進化を続けてきました。先進的なサークルの活動成果を共有することは、QCサークル全体のレベルアップに欠くことができません。『QCサークル』誌はこれまでの60年間にわたりその役割を果たしてきました。産業構造の大変革期といわれる今日その役割の重要性は今後ますます大きくなるものと思います。

SDGs, DX など新たな社会の要請や技術の進化は決して他人事ではなく身近な職場の課題として取り組む日がきます。新たな課題解決への知恵と工夫が発揮されたQCサークル活動の紹介記事が掲載された『QCサークル』誌が読者の皆様のチャレンジのお手伝いできるものと信じております。



特別寄稿

# 原点から新たな幕開け 感動を求めて、楽しく学び合いを！

『QCサークル』誌名誉顧問

早稲田大学名誉教授 池澤 辰夫



『QCサークル』誌 60周年記念おめでとうございます。

10年前の50周年記念の祝辞の中で、私は、『QCサークル』誌は、単なる「流行の先端をゆく情報誌」であるだけでなく同時に、読者に「共感」と「感動」を与え、「夢と希望」を感じる雑誌にしたいと述べました。たとえば、「QCサークル大会」と「部課長・スタッフ大会」とは、どこが違うのでしょうか？ QCサークル大会では、参加者に「感動」を与える点が違います。

ところで、今回は、60年ぶりに「原点から新たな幕開け」という大テーマが与えられ、これは素晴らしいことです。まさに、「管理の要点」である「反省のしかたのレベルアップ」です。飛躍的にスパイラルアップするチャンスです。

- ① 品質経営の原点に戻るなら「顧客の要求を明確にとらえ、満足される品質の商品やサービスを提供しているか、どうか」からの出発です。「アクション」が取れる「継続的なアンケートの集計」が必要になるでしょう。
- ② 現在、素晴らしい「トップからのメッセージ」が常設されていますが、さらに「部課長・推進事務局」、「サークル」に対する常設欄（1～2ページ）もほしいのです。3つの階層に読者層が広がります。
- ③ 当年度、一番お世話になっている支部長会社、地区長会社のご紹介とご苦労話を連載してください。毎年の支部長交代の折の宴席も、感動の式典ですから。
- ④ TQM（総合的品質経営）担当の若い大学の先生方、特に地方大学の先生方に、支部・地区の世話人になっていただき、サークルを理解していただくことです。
- ⑤ この60年間、6350回のQCサークル大会、1回100人参加者としても60万人、退役30万人、元支部長、元幹事長、元担当者は数千人。これらの人の再活用（地区世話人など）もありますが、60代以上の老人にも楽しく学び合い、夢と希望を感じさせる教養誌にしたいものです。石川馨先生は、「教える」、「教育する」という言葉を嫌い、サークルでは、「勉強する」、「学び合う」を強調されてきました。
- ⑥ 2年にわたるコロナ禍で、全国のQCサークル大会運営のみならず、職場第一線（現場）のQCサークル活動も厳冬の時代を迎えています。「災い転じて福となす」ではありませんが、世の中では、幸い、既設の「オンライン」、「Zoom」などが使われ、今後「サークル間の企業交流」も活発に行われるようになるので、『QCサークル』誌の役割も若干変わり、これからは、表彰されたサークルの訪問記事「ホンネの感動の裏話」こそが、読者の共感を呼ぶことでしょう。



# QCサークル60年のあゆみ

たけごん / 出版物

歴代編集委員長

## 1960年代

▼「現場とQC」誌創刊

5周年

年	前史	1962	1963	1964	1965	1966	1967	1968	1969
		(S37)	(S38)	(S39)	(S40)	(S41)	(S42)	(S43)	(S44)

QCサークルの機運高まる  
 ○53年 石川馨「特性要因図」考案  
 ○61年 第11回品質管理大会パネル討論「品質保証における現場長の任務」  
 ○61年 「品質管理」誌の座談会「現場長をめぐるいろいろな問題」

1962年4月 創刊号「現場とQC」誌「さあ始めよう！」とQCサークルの結成と本部登録を呼びかけ（当初は季刊，65年から月刊）



1967年4月 5周年記念号



1969年 第1回QCサークルシンポジウム開催



第1号登録証  
 「松山搬送通信部機械サークル」  
 (日本電信電話公社)

### 全国各地でQCサークル大会開催



1967年大会での  
 質疑応答風景



1968年当時の  
 QCサークル大会風景

1962年

- QCサークル本部設置 (5月)
- QCサークル本部登録開始 (5月)
- 第1回 職・組長品質管理大会開催 (11月)

1963年 ● 第1回QCサークル大会・仙台 (5月)



第1回QCサークル大会風景

1964年 ● 関東、東海、近畿、北陸でQCサークル支部結成 (9月)



石川 馨  
 (1962年～1989年)

1970年代

10周年 ▼『FQC』誌へ改称

15周年

年	1970	1971	1972	1973	1974	1975	1976	1977	1978	1979
	(S45)	(S46)	(S47)	(S48)	(S49)	(S50)	(S51)	(S52)	(S53)	(S54)

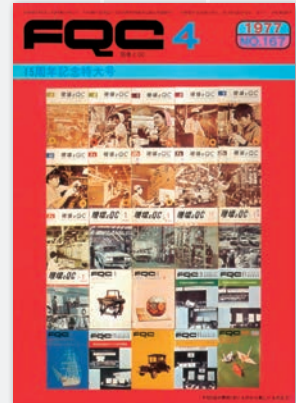
1970年  
『QCサークルの綱領』発刊 (QCサークルの理念、意義を明確化)  
1971年  
『QCサークル活動運営の基本』発刊



1972年1月  
10周年ならびに100号記念



1973年1月  
『現場とQC』誌が『FQC』誌 (Quality Control for the Forman) へ誌名改称



1977年4月  
15周年記念号

ベネッセ / 出版物

- QCサークル地区制により、地域に根ざしたQCサークル活動の普及とレベルアップが進展する
- 1975年頃から第3次産業におけるQCサークル活動が銀行やスーパーを中心に輪を広げ始め、JHS (事務・販売・サービス) 部門大会も開催され、幅広い職種にQCサークル活動が広まっていく



1971年6月  
第1回QCサークル洋上大学開催



1971年11月  
第1回全日本選抜QCサークル大会開催



1978年10月  
第1回国際QCサークル大会が東京で開催 (ジュラン博士の講演風景)



1974年  
第4回全日本選抜QCサークル大会の発表風景

歴代編集委員長

石川 馨



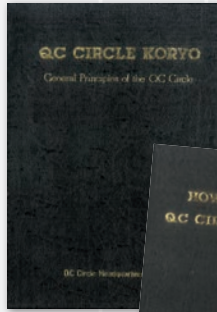
1980年代

20周年

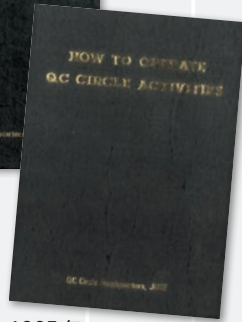
25周年

▼「QCサークル」誌へ改称

年	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989
	(S55)	(S56)	(S57)	(S58)	(S59)	(S60)	(S61)	(S62)	(S63)	(H01)



1980年  
英語版「QCサークル綱領」  
発刊



1985年  
英語版「QCサークル活  
動運営の基本」発刊



1984年に沖縄支部が結成され、  
全国の推進体制が整った



1987年4月  
25周年記念号(表  
紙は、QCサーク  
ル生みの親で育て  
の親であった石川  
馨先生)



1988年1月  
「FQC」誌から  
「QCサークル」誌  
へ改称

- ➔ 米国NBCが放映した“If Japan can ..., why can't we?”が大きな反響を呼び、日本の品質管理、特にQCサークル活動が世界で注目され、QCサークル活動が世界に広まりだした
- ➔ QCサークル活動で新QC七つ道具の普及・活用が進み、QC七つ道具に加えて、言語情報の処理に威力を発揮することから、JHS部門を中心に活用が広まる



1987年  
25周年祝賀会  
25年史を発刊



第1000回QCサークル大会



1981年 第1000回QCサークル  
大会(東京・日本青年会館)



第1000回大会の支部・地区コーナ  
ー



抽選会の風景  
1等はQCサークル洋上大学へ招待

ベネッセ出版

歴代編集委員長

石川 馨

1990年代

30周年

35周年

▼大判化

年	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999
	(H02)	(H03)	(H04)	(H05)	(H06)	(H07)	(H08)	(H09)	(H10)	(H11)



洋上大学出発風景



1992年4月  
30周年記念号



1997年4月  
35周年



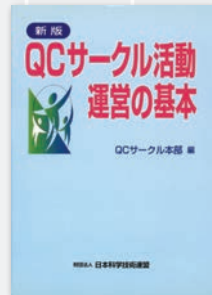
1999年1月  
B5判へ大判化



QCサークル京浜地区の研究成果として「課題達成型QCストーリー」が提案され、あるべき姿を追求する領域へ活動が拡大していく



1996年  
『QCサークル綱領』を  
『QCサークルの基本』へ  
26年ぶりに改訂し発刊



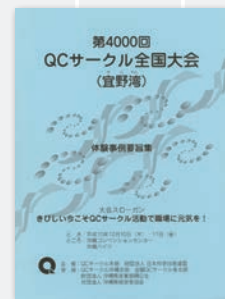
1997年  
『QCサークル活動運営の基本 新版』  
を改訂し発刊



1990年  
第20回全日本選抜大会の発表風景



1993年  
第3000回QCサークル大会の風景



1998年  
第4000回QCサークル大会  
(沖縄・宜野湾)

出版

歴代編集委員長



杉本辰夫  
(1990年～1992年)



池澤辰夫  
(1993年～1994年)



狩野紀昭  
(1995年～1997年)



細谷克也  
(1998年～2004年)

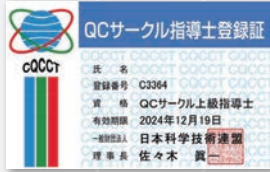


2000年代

40周年 ▼500号発刊

45周年

年	2000 (H12)	2001 (H13)	2002 (H14)	2003 (H15)	2004 (H16)	2005 (H17)	2006 (H18)	2007 (H19)	2008 (H20)	2009 (H21)
---	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------



2000年「QCサークル指導士」の資格認定制度を創設

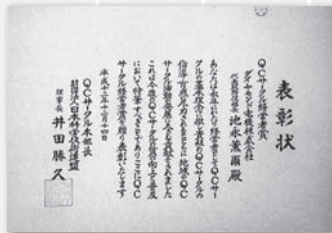


2002年4月40周年記念号

2008年5月(東京・日本青年館)



第500回記念QCサークル大会



2000年「QCサークル経営者賞」を創設(第1回受賞者はダイヤモンド電機(株)池永薫爾氏)



2003年3月500号記念特集



第1回事務・販売・サービス部門全日本選抜QCサークル大会

e-QCC / 出版物

「日本ものづくり・人づくり質革新機構 (JOQI)」に「現場第一線の人づくり部会」が発足し、進化したQCサークル活動e-QCCの原案検討



e-QCCが推進され、中小企業、医療・福祉、サービス分野などへの普及・発展が進展する

2003年10月 国際QCサークル大会(東京・京王プラザホテル)



2005年10月「サークルギネス」第1号認定

歴代編集委員長

細谷克也



中條武志 (2005年~2009年)



2010年代

▼600号発行 50周年

年	2010 (H22)	2011 (H23)	2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)
---	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------



2010年  
「創意工夫」  
コーナー開設



2012年4月  
50周年記念特大号



東日本大震災への願いを込めた600号  
(2011年7月)



▲ 2010年11月  
第40回記念全日本選抜QCサークル大会  
(東京・日比谷公会堂)

2013年  
「QCサークル石川馨賞  
奨励賞」創設  
2013年  
「体験/ワンポイント事例  
・編集功労賞」創設



2015年  
石川馨先生 生誕100年記念  
国際シンポジウム



2014年1月号  
「サークルギネス」100号認定



2014年4月号  
「サークルギネス」に職場編第1号認定



2015年  
石川馨先生 生誕100周年記念



2011年6月  
第4回事務・販売・サービス部門全日本  
選抜QCサークル大会 (東京・品川)



2011年9月  
国際QCサークル大会が8年ぶりに  
日本で開催 (パシフィコ横浜)



2015年10月号  
「サークルギネス」に支援者編第1号認定

ベネッセ出版

歴代編集委員長



綾野克俊  
(2010年～2019年)



		2020年代								
		55周年			▼700号発刊		60周年			
年	2017	2018	2019	2020	2021	2022				
	(H29)	(H30)	(R01)	(R02)	(R03)	(R04)				
	 <p>2017年10月号 「ただいま出勤 QC サークル 119 番」カルテ 100 掲載</p>	 <p>2018年 「QC サークル石川馨賞（事務・販売・サービス部門）」創設</p>	 <p>2017年6月 第10回事務・販売・サービス部門 全日本選抜大会（東京・日経ホール）</p>	 <p>2022年4月 60周年記念号</p> <p>60周年記念号 一原点から新たな幕開け—</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■「QCサークル」誌発行60周年によせて</li> <li>■QCサークル60年のあゆみ</li> <li>■トップからの挨拶</li> <li>■サークルからの声</li> </ul>	 <p>2021年1月 第50回記念全日本選抜 QCサークル大会 (幕張・web開催)</p>		 <p>2019年9月 国際 QC サークル大会が 日本で開催（東京・京王 プラザホテル）</p>	 <p>2018年10月 「体験／ワンポイント事例・編集功労賞」に、「事例編集」功労賞ブラチナ賞と「事例編集」功労賞ダイヤモンド賞を創設</p>	 <p>2021年2月号 「サークルギネス」に個人編第1号認定</p>	 <p>2022年1月号 「ただいま出勤 QC サークル 119 番 ~あなたの困りごとに寄り添います~」が2ページ構成にリニューアル</p>
歴代編集委員長				 <p>綾野克俊</p>				 <p>光藤義郎 (2020年～)</p>		

デジタル／出版物

歴代編集委員長



## トップからの挨拶

JFEスチール株式会社 代表取締役社長 **北野 嘉久氏**



QCサークル活動60周年おめでとうございます。

QCサークル活動でもっとも使われる特性要因図は、QCサークルの祖、石川馨先生が1953年に弊社の前身である川崎製鉄葺合工場にて、技術者から出た「問題に対して原因が多すぎて整理できない」という声に応えて初めて使われたもので、弊社は特性要因図発生の地であり、この瞬間が弊社でのQCサークル活動のスタートともいえると考えております。現在弊社では、約1,400のグループがQCサークル活動（社内ではJ1活動と呼ぶ）を行い、年2回の全社大会にて成果を競い合っています。最近では20代の若手や、女性の活躍も目立ち始めており、まさにダイバーシティの浸透にも大いに役立っております。この活動がより活性化され、働き甲斐のある職場とよりよい社会の創生に一層貢献していくことを期待しています。

トヨタ自動車株式会社 Executive Fellow **河合 満氏**



私は入社58年目で、QCサークル活動は2年先輩になります。弊社でのQCサークル活動は不良撲滅運動としてスタートしました。

私自身、QCサークル全国大会で発表でき、学んだことを紙にまとめ上司に渡したところ、当時役員の方の豊田章一郎さん（現在名誉会長）の目にも届き、サインつきで努力を認めてくれたコメントをいただきました。以降、私を育ててくれたQCサークル活動には感謝の気持ちを持って最大限の情熱を注いでいます。QCサークル活動は、メンバー全員が自由に本音を言える場であり、話し合いを通じて多角的にとらえ、自立的に考え、現地でモノを見て、問題を解決する人材育成に最適な活動です。今後もQCサークル活動を通じて、活発なコミュニケーション、チームワークの向上、リーダー育成に繋がる取組みを期待します。

株式会社安川電機 代表取締役会長兼社長 **小笠原 浩氏**



『QCサークル』誌の創刊60周年をおめでとうございます。

これまで携われた多くの皆様方に敬意を表しあらためてお祝い申し上げます。顧みますと当社のQCサークル活動のきっかけは、オイルショック後の厳しい経営状況下での再建計画でした。1977年に原価低減（VE）、作業改善（IE）、品質管理（QC）を連携させた『VIQ活動』をスタートし、活動の活発化と士気高まりの中で、創業の精神と経営理念を明文化した『社憲』の制定にいたります。その第1項はまさに品質重視の考えです。その後、デミング賞受賞（1984年）に繋がっております。現在、当社はQCストーリーを作法とし、データを世界共通語として仕事を進めるよう周知しております。VUCAの時代、データに基づきQCストーリーで語ることの重要性やリモートワークでの連携の機会としてQCサークル活動を活用する等その有効性を再認識できると考えます。指南書としての『QCサークル』誌の役割にも大いに期待し、周年への寄稿とさせていただきます。



航空自衛隊 航空幕僚長 空将 **井筒 俊司氏**



『QC サークル』誌が創刊 60 周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。

1982 年に千歳基地において始まった航空自衛隊の QC サークル活動も、その後各基地に拡がり、現在では我々の品質改善文化を発展させていくうえで必要不可欠なものとなりました。一方で、航空自衛隊がいざという時に力を発揮できる組織であり続けるためには、装備品の品質管理にとどまらず、「人づくり」がととても緊要です。その実現のために重要な役割を持つ QC サークル活動に、隊員たちが意欲的に取り組み、能力を進展させてくれることを期待して止みません。最後に、航空自衛隊に対するこれまでのご支援に感謝を申し上げますとともに、今後の QC サークル活動の更なる発展をお祈り申し上げます。

日本福祉施設士会 顧問 **高橋 紘氏**



QC サークル活動 60 周年おめでとうございます。

「福祉施設士」は施設運営の資質向上をはかるため 1976 年に発足した社会福祉施設長資格です。日本福祉施設士会は 1989 年、貴連盟の QC サークル指導講師をお招きし、講習会を開催し、以後活動方針の柱に「福祉 QC」活動の普及・促進」を挙げています。「福祉 QC」全国推進委員会により 1990 年から「福祉 QC」全国発表大会を開催。その後、基礎講座、推進者専門講座等を随時開催し、1996 年以降は「福祉 QC 入門講座」を毎年開催しています。2005 年、貴連盟のご協力をいただきスタートした「QC サークル個別指導講座」は受講サークルのある施設を会場とし、担当 QC 指導講師による年 10 回の継続した指導会です。1 都 3 県 9 会場で実施していますが、東京都福祉施設士会会長として、私がおの取りまとめをさせていただいております。今後もお支援よろしく願います。

楽天グループ株式会社 代表取締役会長兼社長 **三木谷 浩史氏**



創刊 60 周年、心よりお祝い申し上げます。

楽天では、品質に重きを置く経営を一層推進すべく、社員が中心となって改善活動に取り組む QC サークルを 2016 年から開始し、これまでにグループ社員のおよそ半数が参加し、現在この活動の加速を進めております。社会に新しい価値を創出するサービスを提供していくためには、イノベーションと同時にオペレーションが重要となってきます。それを高めるためには、QC サークルの実施が欠かせないと考えております。昨年取り組んだ新型コロナワクチンの大規模、職域接種の運営においても、QC サークルを導入しました。スタッフ全員が日々改善活動に取り組むことで、安全を最優先にしながら所要時間を可能な限り短縮し、計 90 万回近いワクチン接種機会を提供することができました。QC サークルは、企業を良くするだけではなく、社会を良くするためにも大きな力を発揮します。より多くのシーンで QC サークルが活用され、拡がっていくことを願っています。



## サークルからの声

QCサークル活動60周年を記念して、みなさんから寄せられた“QCサークル活動の今後に向けてのメッセージ”です。

多数の応募をありがとうございました。

QCサークル活動60周年HP※にも紹介しています。

※詳細は『QCサークル』誌HPおよびQC CIRCLE FRONTLINEをご覧ください。



QCサークル活動には、笑顔と心に炎をつけるチカラがあります。



愛知製鋼(株) 知多工場  
2 & 3 サークル

知恵と工夫とチームワーク！  
笑顔あふれる快適職場を目指すぞ！



グローリー(株) 埼玉工場  
さくらんぼサークル

サークルメンバー丸となって活動に取り組みます！



グローリー(株) 本社工場  
トレジャーハンターサークル

リーダー中心に、個々が輝き問題解決していきます！



グローリー(株) 本社工場  
レッドスター赤星サークル

みんなで取り組む改善活動で元気なサークルを目指します！



グローリー(株) 埼玉工場  
レッドダイヤモンドズサークル

メンバーで仲良く、一致団結して活動していきます！



グローリー(株) 本社工場  
R & A サークル

メンバーで楽しく問題解決していきます！



グローリー(株) 本社工場  
ZERO サークル

今後もサークル員全員でアイデアを出し合い改善に励みます♪



コニカミノルタ(株)  
人事総務サークル

QC活動で学んだ分析手法をフル活用したいと思います。



コニカミノルタ(株)  
ima 人サークル



これからも、サークル全員で改善活動に励みます(/・ω・)/



コニカミノルタ(株)  
★SPROサークル

改善を継続！チームワークで楽しく活動を行っていきます！



(株)小松製作所  
コスモサークル

試作課員として量産時の作業改善により一層取り組んで行きます！



(株)小松製作所  
独楽サークル

QCを通し、改善の楽しさや達成感を伝えていきたいと思えます！



(株)小松製作所  
コロコロサークル

困りごとをみんなで改善！よりよい現場にしていきたいと思います！



(株)小松製作所  
スリーピースサークル

全員が問題意識を持ち小さな改善をコツコツ積み重ねていきます。



(株)小松製作所  
APIIサークル

「品質と信頼性」を追求し、一致団結して活動を進めます。



(株)小松製作所  
IPサークル

QCサークル活動をみんなで楽しみながらチャレンジしていこう！



(株)小松製作所  
Tantanganサークル

要因解析をマスターし、今よりもっとカッコイイサークルになる！



(株)三五北海道  
カクコイ(E)サークル

活動を継続し細かい点に着眼、実行、改善、小さい改善も実施！



山東華菱電子股份有限公司  
円動力サークル

目標明確、全員参加、持続的改善、協力向上！



山東華菱電子股份有限公司  
「銀」より輝くサークル

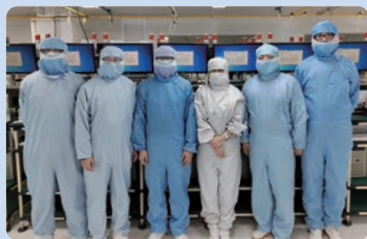
思いつかないことはあるが、できないことはない、革新的アイデアで改善



山東華菱電子股份有限公司  
「巧奪天工」戦隊(「独創的な技量」戦隊)サークル



たゆまぬ革新で効率向上、たゆまぬ改善で作業簡便、楽しい雰囲気！



山東華菱電子股份有限公司  
ドリームチーム

改善、改善、再改善、「ものづくり」の完璧化を図ろう！



山東華菱電子股份有限公司  
「氷墩墩」戦隊サークル

目標は高く、無理だとあきらめず、粘り強く取り組んでいこう！



シスメックス国際試薬(株)  
紙パックチーム

QCサークル活動を通してみんなで楽になるぞ！



シスメックス国際試薬(株)  
製造課二係合同チーム

困ったらまず分析、QCサークル活動



シスメックス国際試薬(株)  
チーム設備技術.'21

楽しく楽に働くために全員参加で活動するぞ！



シスメックス国際試薬(株)  
大容器チーム

QC活動を通じて、これからの色々な改善を実現するぞ！



シスメックス国際試薬(株)  
チーム「SEIKAN / SHINGI」

日本一のQCサークル活動を目指し、業務に取り組んでいきます。



(株)神鋼エンジニアリング & メンテナンス  
やらまいかサークル

他部門と共同し、スピード・質を向上させ改善を促進させます！



(株)仙台村田製作所  
すずたく ANGELs サークル

QCサークル活動を通して活気ある職場を作る！



(株)仙台村田製作所  
独眼流サークル

自分のため・仲間のための主眼に楽しみながら活動していきます！



(株)デンソー福島  
Bee Ambitious サークル

お客様第一、品質至上の実践で更なる改善を積み上げていきます！



(株)デンソーテン  
アストロズサークル



今年は地区大会入賞でニッコリ！  
今後も頑張ります！



(株)デンソーテン  
スレンダーサークル

今後も絶え間なき現場改善を推進し  
続けていきます！！



(株)デンソーテン  
デポサークル

QC サークル活動で困りごとゼロの  
明るく楽しい職場を目指します！



トヨタ自動車九州(株)  
たまいサークル

2022年度は「活動の質を高め」  
目指すは全国の舞台へ



トヨタ自動車東日本(株) 岩手工場  
MK Cサークル

立上げからまだ日の浅いサークル  
ですが「 Teppen 」目指します。



西日本ステンレス鋼線(株)  
細線サークル

『QC サークル』誌には教材が  
たくさん！  
よいところ取り活動しています



日産自動車(株) いわき工場  
製造グループ

修了証ゲットしました！今後も  
サークル活動を盛り上げていきます



日立建機(株)  
QC サークル指導士チーム

全員の知恵とヤル気を融合して、  
最高品質のクルマを届けよう！



マツダ(株) 防府工場  
フィードバックサークル

夢は全社に QC サークルを  
導入すること！



ヤンマーパワーテクノロジー(株)  
メジャーリーガー S サークル

優しい心を持ちながら患者さんの  
栄養管理と業務改善に努めます！



公益社団法人地域医療振興協会  
横須賀市立うまち病院  
にゅーとりしょんサークル

今後も、働きやすい環境づくりで  
笑顔をとたくさん増やします！



リコーイングストリー(株) 東北事業所  
BIG SMILE サークル

QC 活動を通じて、健康で、明るく、  
楽しい食文化を提供します！



六甲バター(株)  
With smoke サークル



## 座談会



— 原点から新たな幕開け —

## QCサークルの基本理念を大事に守りつつ、 技術革新や経済・社会環境の変化に即して QCサークル活動も進化を

日本科学技術連盟理事長、  
QCサークル本部長、  
トヨタ自動車元副社長  
佐々木 真一

本誌顧問、  
東京理科大学名誉教授  
狩野 紀昭

本誌顧問、  
品質管理総合研究所代表取締役所長  
細谷 克也

(司会)  
本誌編集委員会委員長  
光藤 義郎

60周年記念号の特別企画として、“原点から新たな幕開け”をメインテーマに座談会を開催しました。東京・西新宿の日科技連本部に集まっていたのは、これまで長年にわたってQCサークル活動の研究と普及、推進に尽力し、多大な貢献をされてきた方々（敬称略、以下同）です。

話題はQCサークル活動の草創期の頃から将来の姿にいたるまで、広範囲に及びましたが、ここでは、新たな幕開けに向けて今後の活動で望まれる姿を中心に、座談会の概要をお届けします。

### “QCサークルの父”石川馨先生の 力強いリーダーシップに導かれて

**光藤** 本誌の創刊号は1962年4月号でした。最初は『現場とQC』という名称で発刊し、その後、この雑誌を使って勉強しながらQCサークルを結成しようと呼びかけたので、QCサークル活動よりも本誌が先にスタートしたわけですね。この活動についてはみなさんにとってもいろいろと思い出深いことが多くあると思いますが、強く印象に残っていることなどをまずはお一人ずつお話しただけですでしょうか。

**狩野** 東大の4年生の時に、今日“QCサークルの父”と呼ばれている石川馨先生の研究室に入れていただいたことがQCサークルとの出会いでした。ちょうどこの雑誌の創刊の翌年1963年から、工学博士をいただくまで7年間、先生のご指導を受けました。国内はも

とより、海外の工場へもQCサークル活動導入を含めての現場指導にお供をしました。石川先生は東京、大阪をはじめ、日本の隅々まで足を運ばれ、すごい勢いで普及活動に邁進され、毎週のゼミ開催時にご自分の体験を情熱を込めて私たちに語って下さいました。そのお姿が60年経過した今日も思い出されます。

**細谷** 私の場合、勤めていたのが日本電信電話公社で、今のNTTです。品質管理を担当することになったのですが、それがよくわからないので職場ではやっていたら、1962年に日科技連の品質管理セミナーベーシックコースに派遣され、勉強しました。その縁で日科技連から講師を依頼され、さらに『QCサークル』誌の編集委員を担当。その後、編集委員長もやらせていただきました。私自身、このQCサークル活動は非常に大事な活動だと思い、今までお手伝いしてきました。



それと、QC サークル活動の普及という面では、QC サークル本部を中心とする組織化が各地で盛んに行われたわけですね。そこでは多くの企業の経営者や品質保証の責任者の方々、あるいは大学の先生方などが非常に地道な取組みを積み重ねられていました。企業の壁を越えて進めてこられました。これはやはり特筆すべきことだったと思います。

**光藤** それを生み出したのも、まさに石川先生の力。オルガナイザー（組織者）ともよく呼ばれましたから。

**狩野** QC サークル活動普及・推進のために全国的な組織図を描いて支部、地区を体系化させていくだけでなく、新設の順番も各支部、地区の責任者の人事とともにお考えになっていたように思われます。しかも石川先生に頼まれたら、誰だって断れなかったでしょうから（笑）。

**佐々木** 私が大学の工学部を出てトヨタ自動車工業（現：トヨタ自動車）に入社したのは、1970年。「日本品質管理賞（現在の「デミング賞大賞）」を受賞した年でした。配属先は元町工場（愛知県豊田市）で、検査部車両検査課の技術係。新入社員なのにいきなりQC サークルのアドバイザーをやれと指示され、とにかく必死で勉強したことを覚えています。会社ではその以前から全社一丸になってTQC 活動を進め、1965年に「デミング賞実施賞（現在の「デミング賞）」を受賞していました。工場長から管理職、現場の工場長まで、みんなQC サークルに本当に熱心でした。

それまでの非科学的な勘や経験、度胸による仕事の進め方を、科学的な観点からどんどん改善していったわけですね。品質管理、QC サークルって本当にすごいということを実感しながら仕事をさせてもらったので、幸せな社会人としてのスタートだったと思います。

## IoT やデジタル技術を活用する努力と工夫も必要に

**光藤** QC サークル活動としては草創期のと

ても興味深いお話でしたが、今は企業を取り巻く経営環境や社会環境の変化、あるいは働き方改革などもあって、第一線職場自体も大きく変わりつつあります。デジタル技術の進展や地球環境問題なども日々話題になっています。そうした状況を踏まえ、これからのQC サークル活動はどうあったらよいのかについて、みなさんに語り合っただけければと思います。

**細谷** 光藤さんが言われた様々な変化については、私は激変だととらえています。それだけにQC サークル活動についても多少大げさな表現になりますが、構造を改革しなければいけないのではないかと考えています。そして大事なポイントになるのは、経営への貢献でしょう。経営業績に貢献しなければ、経営者はQC サークル活動を評価し、推進しようとしてくれないと思うからです。

そのためにこれから目指す活動としては、たとえば、経営上の重要課題と整合した職場の課題をテーマとした活動。あるいは、有形





の効果の内容が具体的に大きい活動、スピードをはかった活動、活動の結果が経営者、管理者やサークルメンバーの感動を呼ぶ活動といった観点が、ますます必要になると思います。

**佐々木** モノづくりの現場が変わってきたということでは、IT化や生産技術がビックリするくらい進化し、特に電子部品などはブラックボックス化した設備で製品が生み出される感じで、加工プロセスはほとんど見えません。しかも製品の更新が早く、寿命が短くなっていることもあり、現場で何か問題点があってもそれを調査・分析し、課題解決をするより、とにかく生産を優先する意識が働いているように見えます。

**狩野** 今のお話は衝撃的でした。

**佐々木** たとえば、半導体などの工場におけるQCサークル活動になると、高度な知識や技術力を持つ人たちが加わらないと、うまく進められない気がします。製造工程がブラックボックスになっただけでも、コンピュータ・

シミュレーションなどの方法で何とか問題の現象を可視化させ、改善活動に結びつけている現場もあります。このように職場の技術的領域によっては、QCサークル活動の中にIoTやデジタル技術をうまく取り込んでいく工夫や努力が欠かせなくなると思います。

これからのQCサークル活動ということでは、DX（デジタル・トランスフォーメーション）の積極的な取込みとSQC（統計的品質管理）との融合、あるいはWeb会議などの活用なども大事なポイントになるでしょう。さらに、目的や目標によってサークルメンバーを柔軟に選定するというスタイルも今後は大きなカギになるように思います。

**光藤** その一方で、QCサークル活動として変えてはいけないところは何でしょうか。

**細谷** これまでQCサークル活動で掲げてきた「基本理念」は、これからもしっかりと守る必要があると思います。みなさんもよくご承知の「人間の能力を発揮し、無限の可能性を引き出す」、「人間性を尊重して、生きがいのある明るい職場をつくる」、「企業の体質改善、発展に寄与する」の3点です。そしてさらに加えるなら、このQCサークル活動を誰のためにやるのかということも、多くの方々にしっかり認識してほしい。つまりこの活動は、自己実現→個の成長→個の価値向上につながる活動だということです。

**佐々木** 私も同感です。そしてよい仕事をしようとするのは人の本能であり、人の能力を信じることです。現場・現物・現実の三現主義による実証主義やプロセス改善を重視する姿勢の徹底したこだわりなどは、これまで同様に大事にしていくべきだと考えます。さらにいえば、「環境や技術などがどれだけ変わっても、改善活動は必ずある」というのが我々のスタンスだと思います。

**基本の枠組みは変えなくても  
活動の中身は柔軟に変えていく**

**狩野** これまで、産業構造の変化とこれが





もたらず社会構造の変化によって職場の第一線で働く人たちが大きな影響を受け、結果としてQCサークル活動も変化してきましたが、今後もこの傾向は続いていくでしょう。具体的には教育水準の変化です。文科省の調査結果によれば、高校進学率はQCサークル創設の1960年頃の約60%に対して今日は約95%です。大学進学率も10%強から約60%となり、かつての中卒・高卒中心の現場構成から、高卒中心となり、今日は大学卒も含むように変化してきています。また、技術革新の進展とともに、労働集約的な現場から、オートメーション化、ロボット化が進み、作業内容にも大きな影響を与えてきました。

一方、国勢調査によれば、製造業を中心とする第二次産業に従事する労働人口は、1960年頃の約30%に対して今日は約25%と若干の減少が見られますが、サービス産業を中心とする第三次産業では約40%から約70%強というように大幅な拡大が見られます。このことは、QCサークルではJHSでの普及ということに見ることができ、今後一層この傾向を加速させていく必要があるでしょう。また、第三次産業の経営者は、従業員に対して現状の改善に加えてイノベーションへの参画の期待が高いという話も耳にしますが、QCサークル活動全体の進め方にもこの傾向が出てくると思います。

**佐々木** それは私も実感できます。かつての自動車産業は労働集約型で、あえて言うなら現場第一線では若くて持久力のある人たちが働いてくれば一番効率がよかったです。しかしその後、急速に装置産業化が進みました。今、工場働く人たちの中には、設備の稼働状況を適切に見極め、何か異常があれば対応するといった業務を行う人が多くいます。そういう人たちのQCサークル活動の発表を見ると、これは技術スタッフの取組みではないのかと思うようなハイレベルな報告もあって、驚かされます。

**細谷** たしかに最近のテーマ解決活動の発

表の中身を見ていると、ずいぶんレベルが高いですよ。QC手法や新QC七つ道具を活用するだけでなく、さらに実験計画法なども勉強して使いこなすような事例を時々見かけますね。

**狩野** だから世の中の大きな変化に合わせて、QCサークル活動もどこかをまったく新たなモノに置き換えるべきだということではなく、伝統的なQC手法に加えて近接分野のIE手法やTPM手法、あるいはQC七つ道具よりもレベルの高い統計的方法や新しいQC手法、たとえば重回帰分析、自工程完結活動なども加えていくという柔軟な姿勢が必要になると思います。つまりQCサークル活動の基本的な枠組みは変えないが、中身を柔軟に変えていくということです。そうすることが教育水準の向上という強みを活かし、サービス産業の拡大という産業構造の変化やデジタル技術の飛躍的進化、グローバル化などへの対応を可能にする道だと考えています。





**光藤** 職場第一線で働く人たちに変化が起きているからには、その人たちが魅力を感じるようなQCサークル活動にしていけないと、ついてきてくれない、また技術が高度に進化していった時には、問題解決のアプローチ自体も変えるというか、新たなものを加えていかなければいけない、そういう状況の変化に我々是对応できているのかということかと思えます。

### 新しい形のQCサークル活動も 雑誌の中でできるだけ紹介を

**光藤** 最後になりますが、本誌のあり方についても変えたほうがいい、見直したほうがいいポイントと、変えるべきではないと思われる両面についてご意見をお聞かせください。

**佐々木** 私は入社してすぐに工場でQCサークルのアドバイザーを担当させられたので、その時とても貴重だったのが現場に置いてあった『QCサークル』誌でした。毎月読み

漁って、すごく助けられた。そこで得た情報を知ったかぶりのように現場の人たちにも話していたので、人の<sup>ふんどし</sup>禪で相撲を取っていたようなものですよ（笑）。

ただ、私が現場にいた時のQCサークル活動は、問題解決型に集中していればよかった。しかし最近のQCサークル活動を見ると、課題達成型といえればいいのか、今は問題になっていないけれど、このままではダメだ、何かを変えなければというところを起点にした取組みも増えている気がします。しかし、現在の『QCサークル』誌は問題解決型の事例は豊富にあるけれど、それ以外の事例がまだまだ少ない。問題解決型とは異なる新しい取組みによる成功事例が多く紹介されるようになれば、読者にとっても新たな発見があってさらに関心と注目が集まるはずですよ。

それとオフィス業務のQCサークル活動の進め方や手法、解説記事ももっと加えてもらいたいですね。

**細谷** もともとQCサークルとは、勉強する小集団としてスタートしたものです。でもこの頃は、あまり勉強していない職場も少なくないのではないかと。そこがものすごく問題だと、私は考えています。といっても、無理に『QCサークル』誌を読みなさいというわけにもいかないでしょう。やはり楽しく読めて、やさしく学べる雑誌にももっともっとなってもらいたい。職場第一線の人たちに、魅力ある情報を提供することに注力していただきたい。それが私の希望するところです。

**光藤** とても示唆に富んだ話を聞かせていただきましたが、あっという間に座談会の予定時間を超えてしまいました。まだまだ語り足りないことが数々あるとは思いますが、今日伺ったことをこれからのQCサークル活動と本誌の改善、改革に結びつけていきたいと思えます。本日は長時間にわたって活発な議論を頂戴し、ありがとうございました。

（構成・文／井上邦彦）





月刊誌



2022年QCサークル誕生60周年



# みんなと改善 サークル



『QCサークル』誌は、QCサークル活動に関する情報を発信している世界で唯一の専門誌です。

## みなさん、『QCサークル』誌をご存じですか？

体験事例をはじめ、手法の解説、QCサークル活動運営方法の工夫など、QCサークル活動の教科書的な役割を果たしています。活動でお困りのQCサークルリーダー、メンバーのみなさん、支援でお困りの推進者のみなさん、ぜひ本誌をご活用ください。



最新号の立ち読みは『QCサークル』誌専用HPから  
[http://www.juse.or.jp/qc\\_circle/](http://www.juse.or.jp/qc_circle/)

※タブレット端末やスマートフォンのソフトウェア環境により、最新号の「立ち読み」がご覧いただけない場合があります。

立ち読みはこちら



『QCサークル』誌とはどんな雑誌なのか！  
YouTubeでご覧ください。

YouTubeはこちら

年間購読料：5,400円(税・送料含) 通常購読料6,600円より1,200円お得でおすすめします。



Twitterしています。『QCサークル』誌、QCサークル本部主催大会などの情報発信しています。  
ぜひフォローなさってください。[https://twitter.com/QC\\_CIRCLE](https://twitter.com/QC_CIRCLE)

〈お問い合わせ先〉(株)日科技連出版社 営業部販売管理課  
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-15-5 DSビル TEL. 03-5379-1237 FAX. 03-3356-3419  
ホームページ <https://www.juse-p.co.jp/>

ご注文はこちら(スマホ) →



# QCサークル関係の専用ウェブサイトです！ ～スマートフォンでも見やすいウェブサイト！是非ご利用ください！～



QC CIRCLE

## FRONTLINE

検索

お問い合わせ

各種資料ダウンロード ▶



これまで、これからも

QCサークル活動が企業力を支える。



QCサークル活動とは



トレンド・ナレッジ



全国推進組織と支部・地区の活動情報



大会・セミナー情報



スキルアップ情報



賞・表彰

最新情報はもちろん、セミナー、大会、イベント開催のご案内のほか、QCサークル活動を支援するハウツーや現場・事例紹介など盛りだくさんです。

『QC CIRCLE FRONTLINE』へのアクセスはこちらから → <http://qc-circle.jp/>







【発行所】

一般財団法人 日本科学技術連盟

〒163-0704 東京都新宿区西新宿2-7-1 小田急第一生命ビル4F

『QCサークル』誌編集 TEL:03-5378-9817

※本誌のコピー、スキャン、電子データ化等の無断複製は、著作権上での例外を除き、法律で禁じられています。